



# とらいあんぐる



2022 年 1 ・ 2 月

一音会ミュージックスクール発行

## 「とにかく 10 年」

私がこの 10 年、合言葉のように唱えていた言葉です。

特に 10 年前は、1 日の中で 100 回くらい唱えていました。そして最近まで、唱えない日はありませんでした。

とにかく 10 年、何も考えないで走る。走り続ける。だいじょうぶ。走っていれば、何も考えないですむ。

10 年たてば、どうにかなっている。だいじょうぶ。10 年、走り続ければ、景色が変わっているはず。

私はその考えにすぎりました。

すぎるしかなかったのです。

10 年前、私の身におきたことは、私にとって、あまりにも大きな悲しみであったため、直視することができませんでした。ふりかえることも、こわくてできませんでした。

私は、足元を見ることも、うしろを見ることもやめ、ちょっとだけ先を見て走ることにしました。走っていれば考えなくて済みます。

もちろん、本当の意味で走るのではなく、次のこと、そのまた次のこと……

と、先のことだけ、それも目先のことだけ見て、動き続ける、という意味です。

立ち止まるのは、10年たってからと決めました。

それは、現実を直視したくない当時の私にとっては、悪くないアイデアでした。

立ち止まれば、いろいろと考えるはめになりますが、立ち止まらないと決めてしまえば、深く考えることもナシです。考えなくてはいけないことがあったとしても、それも全部あとまわし、です。



10年前の1月26日の夜、母が突然、旅立ち、母のやりかけの仕事も、何年も何十年も続けてきた仕事も、何もかもすべてが宙に浮いてしまいました。

あたりまえのように母がずっと続けていたことが、引き継ぎの作業もなく、止まった瞬間です。

この「とらいあぐる」のエッセイも、その1つでした。

10年前の今号、2012年の1・2月号は、母、江口寿子の最後のエッセイでした。

ですが、このことはすでに書いたことがあります。この号は私の代筆です。それまでも母と私とで共同作業の様相をおびていたものの、完全に私が一人で書いたのは、この号がはじめてでした。

10年前の1月、母は入院中ではありましたが、そこそこ元気でした。

でもその時、退院の話も持ち上がっていたので、あまり無理をさせたくな

いと思っていました。

PCを操作させたり、口述筆記をしたりすれば、退院が延びてしまうのではないか・・・それをおそれていました。

私も当時、家と病院の往復で、生活がメチャクチャでしたが、「とらいあんぐる」の発行は大切です。しかも、1年の最初の号であり、皆さまにご挨拶をするべきタイミングです。どうしても発行したいと思いました。

私が自宅に戻ったすきに、私が勝手に書いて、また病院に戻って、病室の母の枕元で、ものすごい早口で読んできかせ、承諾をもらって、母の名前で勝手に出したのでした。

はっきりいって、やっつけ仕事です。

まさかそれが、江口寿子の最後のエッセイで、最後の原稿になるとは！

そして次の号から、私が書くことになろうとは！

その日々が10年も続くとは！

私が一番、びっくりです。

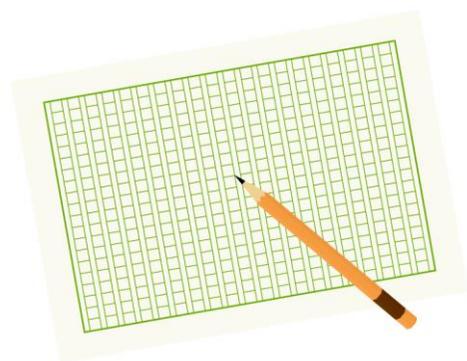
母が亡くなり、「とらいあんぐる」を私が書くことに落ち着くまでには、少し揉めました。私の父が書きたがったのです。「とらいあんぐる」の執筆権のとりあいで、父と大げんかもしました。

「とにかく1年、私に書かせてくれ」と、最後は「1年」という期限つきでもぎとった執筆の権利でした。

以降、「1年」の約束をなしくずしにのばしてきました。

2年書き、3年書き・・・私はとりあえず10年、がんばって書くつもりでいました。あんまりはやく投げ出すと、天国に行った時に、母から怒られそうです。

ここでも合言葉の「とにかく10年」です。



10年も書いたら、母も許してくれるだろうと思いました。

この「とらいあぐる」は、今号が360号ですが、実は第1号からエッセイを載せていたわけではありません。

最初は教室からの連絡事項をお伝える新聞でした。途中から、母が自分の思うことを生徒さんやご家族に伝えたくなくて、唐突に冒頭のエッセイをはじめたのです。以来、エッセイと新聞を合体させた現行のスタイルになっています。



最初のエッセイは、1995年の3月号です。タイトルは、「あなたが生まれた日」でした。

そして母の最後のエッセイは、2012年1・2月号「メンテナンス中」です。

実に17年です。

17年にはおよびませんが、10年書けば、私の責任はそれなりに果たしたことになるのではないかと、そう思いました。

「10年も書けるだろうか・・・」

最大の不安は、実はそれでした。

10年前の私にとって、10年は途方もなく長い年月に感じました。

切実な問題として、10年も書いたら、書くネタがなくなってしまうのではないかと？

いや、10年よりずっとはやく、ネタが尽きてしまうのではないかと？

私は本気で心配していました。

私にとっては、とにかく10年、「とらいあぐる」を書き続ける、というこ

とが、この10年の大きな目標でした。

そして、今はっきり、それは私の支えでもあったと思うのです。

執筆権をめぐって争った私の父も、5年前からは施設の中です。はりあいが無いとは、このことです。

10年書いたら、エッセイは辞めてしまって、本来のマジメな教室新聞の形にしようと思っていた時期が確かにありました。もともと「とらいあんぐる」は、教室の新聞であり、エッセイは“校長先生の趣味”です。

書くことに苦しんだ時は、「10年やったら辞められるのだから」と、自分にいいきかせて耐えました。

そう思っていたはずなのに、今、私は、不思議なことに、辞めたい気持ちになりません。

この10年、母を失い、家にいても仕事をして、そこには母の痕跡が色濃く、そのせいで悲しみの発作におそわれることもありました。

10年前の1月、寒空を見上げ、私

は途方に暮れていました。その時は、10年後どころか1年後も想像できなかったことを思い出します。

こんなに大きな悲しみを抱えたまま、10年も生きていられるのだろうか？

本気で、そう思っていました。

そんな私に、悲しみを吐き出す場として、「とらいあんぐる」がありました。

吐き出すと、そのテーマはいったん済んだこととなります。

すると、そこからちょっとだけ離れることができるのです。

気づけば、身体が一步、前に出ています。

吐き出しては進み、また吐き出しては進み・・・そうして一步、また一步と、進むことができたのです。



また、吐き出して考えを自分の外に出すと、自分の考えを客観視できることにも気づきました。

心理療法で日記を書くという手法がありますが、それと似ています。

そして、これが最大の幸せですが、素人のつたない文章を読んで受け止めてくださる方々が常にいました。

時々、はじめてお会いする生徒さんやご家族が声をかけてくださり、エッセイについてのご意見やご感想をきかせてくださることがあります。

「読んでくださっているのだ！」という発見に、力がわきます。

思い返せば、母も最初は17年も書き続けるつもりはなかったのだと思います。結果的に死ぬまで書き続けたわけですが、その母の気持ちが、今はよく分かります。

今度の私の目標は、母が書いた17年です。あと7年書けば、絶対に母から怒られません。今月からは、「とにかくあと7年」を合言葉に、書きます。

この10年間、支えてくださって、本当にありがとうございました。

今しばらく、皆さまにおつきあいいただきたいと思っています。今年も、そしてこれからも、よろしく願いいたします。  
(江口 彩子)



## ◆今年もよろしくお願ひいたします

年末年始は、いかがお過ごしでしたか？ 久しぶりに自肅が解除され、警戒しつつも本来の年末年始らしい時間をお過ごしになれたのではないかと想像します。

ですが、つかの間の休息になるのではないかという、多くの方の予想通り、オミクロン株が感染者数を伸ばしています。

オミクロンの動きは、これまでの株とは多くの点で異なり、昨年とも、一昨年とも違う1年がスタートしたと感ずます。

いろいろな点で違ひがあつたとしても、やるべきことは同じです。最大の警戒をもつてレッスンに臨むべく、スタッフ一同、気を引き締めています。皆さまのご協力をあおぐ場面も多々あると思ひますが、どうか今年もよろしくお願ひいたします。

年明けは、「ピアノ・トライ」にはじまり、「フォルテの会」、「ル・コンセール」、「ジュニコン・オーディション」と、イベントがめじろおしですが、1つ1つのイベントが安全に執りおこなわれますよう、尽力いたします。くわしくは、次項以降もごらんください。

今年が、人類がついにコロナに打ち勝つ年になりますことを祈ります。



## ◆「ピアノ・トライ」がスタートします

すでにお知らせしてきましたように、今年度の「ピアノ・トライ」は、「対面式」と「動画式」のうち、ご都合の良い方をお選びいただける“ハイブリッド方式”です。すでに多くのお申し込みを頂戴することができました。どうもありがとうございました。

今回の“ハイブリッド方式”は、初の試みです。なにごとにも初めての試みは、分かりにくいものであると思います。生徒さん、ご家族の皆さまには、分かりにくい点もあり、ご面倒をおかけしたかもしれません。ご協力に深く感謝しています。

「対面式」は、1月22日（土）より、スタートします。「動画式」の動画提出〆切は、1月31日24時です。どちらも、まだ時間がありますので、練習をお続けください。演奏を楽しみにしています。

「対面式」をお申し込みいただいた時は、コロナの状況が、今とはかなり違っていました。もし、「対面式」で申し込まれた方が「動画式」に変えたい場合は、いつでもおっしゃってください。変更は可能です。皆さまにご不安なく、お受けいただけますよう、ご相談にも乗ります。ご相談事やご質問は、お気軽に担当スタッフか本部まで、お寄せください。

## ◆「ル・コンセール」もハイブリッドです

「ピアノ・トライ」ですてきな演奏をしてくださった生徒さんには、「ル・コンセール」にご出演いただくことができます。ご参加費用はかかりません。

「ル・コンセール」も、「対面式」と「動画式」がございます。これは、昨年と同じです。

「対面式」は、2月13日（日）もしくは2月27日（日）に、「ひびきホール」で開催します。少人数編成の部で、部ごとに入れ替えて換気をし、感染防止につとめます。客席の人数を制限し、椅子と椅子の間隔をじゅうぶんにあけます。

「動画式」は、「ル・コンセール」用の動画を提出していただきます。会場に足をお

運びいただく必要はありません。限定公開の You Tube で、皆さんに観ていただきます。You Tube のURLは、「ル・コンセール」にご参加の生徒さんとご家族にだけお知らせしますので、一音会関係者以外の人に見られる心配はありません。期間限定の公開を予定しています。

「ピアノ・トライ」の方式とは関係なく、「ル・コンセール」の方式をお選びいただけます。例えば、「ピアノ・トライ」を「対面式」とした方が「ル・コンセール」を「動画式」とすることも、その逆も、可能です。

「対面式ル・コンセール」に、人数の上限はありません（「ピアノ・トライ」と異なる点です）。ご希望の方すべてに、ご参加いただけます。

## ◆「フォルテの会」を開催します

「フォルテの会」は、声楽、ヴァイオリン、フルート、「うたくらぶ（合唱）」の発表会です。予定通り、2022年2月6日（日）に開催いたします。

開催方式も、予定通りです。といいますのも、計画段階の時には、デルタ株が未だ猛威をふるっており、感染防止に力点を置いた開催方式で準備を進めてきたからです。

「対面式ル・コンセール」と同様、密を避けた方式とします。「フォルテの会」は、昨年、無観客開催とし、「来年こそ有観客で！」という、強いご要望をいただいていた。かなえることができ、とてもうれしく思っています。

当日は感染防止のために、こまごまとしたお願いをいたしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。



## ◆新年度のレッスン希望表をご提出ください

現在、「今年のあゆみ」とともに、「新年度資料冊子」「一音会ガイドブック」「2022年度レッスン希望表」「ピアノキャンペーンのお知らせ」「月謝表」を、お配りしています（お月謝は今年度と変わりません）。

すでに受けているレッスンのことはお分かりになっても、まだ受けたことのないレッスンについては、お分かりにならないことも多くあると思います。「一音会ガイドブック」には、この時期、皆さまからお受けすることの多いご質問を載せています。リトミックのこと、ソルフエージュのこと、アドバンスコースのこと・・・どうぞ、お時間の許す時にご覧になってみてください。

「ガイドブック」でカバーできていない内容もあると思います。そうした内容につきましては、直接、お問い合わせください。生徒さんお一人お一人のご事情をふまえて、ご相談に乗らせていただきたいと思います。

「レッスン希望表」は、来年度の、レッスン科目、曜日、時間のご希望を、あらためておうかがいするものです。たいへんお手数ですが、全員の方にご提出いただきます。特に変更がない場合も、「変更なし」としてご提出ください。書き方が分からない場合は、遠慮なくおたずねください。

新年度からのスケジュールが、はっきりとは分からない場合には、仮の希望をいったんお出しください。スケジュールがはっきりし次第、後日、改めてお出しただければ大丈夫です。

なお、曜日や時間を変更する場合には、ほとんどの場合、担当が変わることをご理解ください。現在、その日時に受けていらっしゃる生徒さんが、最優先となるためです。もちろん、ご希望の日時の付近で、現担当の手をあげることができそうな場合には、できるかぎり担当を変えずにお組みするよう、努力いたします。

また、担当が変わる場合にも、個々の生徒さんに、一番適したスタッフが当たるよう、考慮いたしますので、ご安心ください。

グループレッスンでは、年度の変わり目に、編成や担当が変わることがございます。

付記していただきましたご希望は、担当の先生の目にふれることなく、本部で処理します。ご遠慮なく、率直なご希望をお書きください。

新年度のスケジュールを確定するまでには、ご希望をおうかがいするために、こちらからご連絡をさせていただくことがございます。

お忙しい方が増え、ご家族の方と、お電話ではなかなか連絡がとれないことが増えています。日中、お電話に出ることができない、そして折り返すことが難しい、というご事情もよく分かります。そのような場合、メールでおうかがいやご相談をさせていただけますと助かります。用紙には、ぜひメールアドレスもご記入いただきたいと思います。

希望表は、2月20日（日）までに、添付の封筒に入れて、ショパンはうす受付にご提出ください。本部あてに郵便でお送りいただくこともできます。

本部住所：〒171-0051 豊島区长崎3-19-1



## ◆生徒さんご家族向けのキャンペーン

例年、教室はこの時期、新年のキャンペーンをおこなっていますが、今年は外部の方向けのキャンペーンをおこなわないことといたしました。理由は、体験レッスンをご希望の方が多くいらっしゃる、教室が密になってしまうからです。

ただし、在会の生徒さん向けのキャンペーンは、例年通りおこないます。すでに在籍していらっしゃる生徒さんが、まだピアノや絶対音感やリトミックを受講していない場合、それらのレッスンを無料でご体験いただけます。ぜひこの機会に、お試しください。

在籍していらっしゃる生徒さんのごきょうだいも体験される場合も、1回無料になります。また、キャンペーン期間中にご入会いただきました場合、通常15,000円（税抜）のご入会金を、10,000円（税抜）とさせていただきます。ご家族の中で3人目のご入会の場合は、ご入会金は不要です。

ごきょうだいだけでなく、お父さまやお母さまも適用対象です。ご興味のある方はおはじめるチャンスです。まずは体験レッスンから、お気軽にお申し込みください。



## ◆客員教授の先生方のスケジュール

先号で、客員教授のプリドノフ先生ご夫妻を3月にお招きすることを、お知らせしました。お知らせしたばかりですが、残念ながら、来日がかなわなくなりました。アメリカの感染状況は、日本の比ではありません。残念です。

昨年同様、「ジュニコン・オーディション」を、リモートでおこないたいと思います。「ひびきホール」でオーディションをおこない、その際の演奏を撮影させていただきます。動画をプリドノフ先生ご夫妻が観て、審査をおこないます。

したがって、今年の「ジュニコン・オーディション」は、以下の日程で、プリドノフ先生ご夫妻を審査員とする形でおこないます。(動画提出方式ではありませんので、ご注意ください。足をお運びいただく必要があります。)

**2022年3月21日(祝) 午後1時～ 「ひびきホール」**

2022年4月時点で、小学校4年生以上、高校3年生以下の生徒さんがエントリーできます。エントリーをお考えの生徒さんは、次の項の「エントリー要綱」をごらんの上、担当先生と相談しながら準備を進めてください。

「ジュニア・コンサート」は、2022年4月27日(水)夕方、大泉学園「ゆめりあホール」にて、開催予定です。

## ◆「ジュニコン・オーディション」要綱

「第16回ジュニアコンサート・オーディション」を開催します。生徒さんの、音楽性、実力、将来性、すべてを総合的に評価する審査となります。

次ページが、エントリーの要綱です。

- ① 「ジュニコン・オーディション」は、「ひびきホール」でおこないます。
- ② 曲目は自由ですが、演奏時間は6分～12分程度とします。組曲や変奏曲の抜粋、ソナタの楽章の抜粋、短い曲を何曲か組み合わせることはかまいません。6分～12分は目安です。多少オーバーしてもかまいません。
- ③ エントリー資格者は、2022年4月時点で、小学4年生～高校3年生の、一音会に在籍する生徒さんです。
- ④ エントリーするための費用は15000円です。これは全額、審査員の先生ご夫妻や通訳者へのお礼にあてられます。もし、選ばれて「ジュニア・コンサート」に出演することになったら、コンサート出演費用5000円が必要になります。
- ⑤ 「ジュニア・コンサート」は、4月27日（水）夕方、「ゆめりあホール」（西武池袋線・大泉学園駅前）でおこないます。



\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[1000@ichionkai.co.jp](mailto:1000@ichionkai.co.jp)      電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。